

# 沖縄現地学習会2024

4月19日(金)から2泊3日で、南大阪平和人権連帯会議から「沖縄現地学習訪問団」として、総勢23名で参加してきました。

## 平和に解決することの重要性を感じた 執行部 竹山 保彦

19日早朝便で関西空港を離陸、那覇空港に10時ごろに着陸、到着後マイクロバスに乗り換え、まず波上宮(なみのうえぐう)に向かいました。



波上宮は那覇港と那覇泊港の間に在り、海岸沿いの断崖上に立つ琉球八社の一つで熊野三所権現を祀り、琉球王朝時代から海上交通の安全・豊漁・豊穰などの信仰を集め、篤い尊崇を受けてきたと、また市民からは「なんみんさん」の名でも親しまれていますが、説明がありました。

お参りしたあと移動し、「道の駅かでな」で昼食を終わらせて、エレベーターに乗り、2階に上がると嘉手納基地が一望とはいかないまでも、米軍戦闘機の離陸や米軍ヘリコプターがホバリングしているのが見えました。離陸の音がかなりの騒音で、道の駅に騒音測定器があるのにびっくりしました。

その後、辺野古テント・ゲート前に移動し、元全港湾建設支部の宮崎さんから現在の状況と「座り込み抗議3575日」となり、7月で10年となります」と説明がありました。また、「3月11日から土砂運搬のゲートが変更され、埋め立て予定地に隣接するキャンプシュワブの国道沿いにある専用ゲートを閉鎖し、およそ700m北方向に移動して、工事車両出入口として使い始めた」とのことでした。

説明を受けたのち、テント・ゲート前から新しいゲートまで徒歩で移動す

ると、機動隊と警察官・ガードマン約30名がゲートをふさぐように一列に並んで立っていました。現地の座り込みの方々も搬入のダンプカーを阻止するためにがんばっておられ、頭が下がる思いでした。港合同中村委員長が現地のかたに激励を送り、現地を後にしてホテルに向かい1日目はおわりました。

2日目は、朝一に琉球セメント所有の安和棧橋(土砂搬出反対行動現場)・塩川港を見学、沖合いには土砂運搬船(ガット船)が10隻以上、停泊していました。その後、本部港からフェリーに乗り、約30分であつて戦地になった伊江島に到着すると、ガイドの大畑さんが待っておられました。大畑さんから伊江島の説明があり、移動しながら事細かく教えていただきました。戦時中、東洋一と言われた陸軍飛行場が建設され、守備隊が配備されていたため、米軍の主要な攻撃目標とされた。

伊江島は1945年4月16~21日にわたる「伊江島の戦い」で、一般住民約1,500人を含む4,700人余が犠牲となりました。

次に、戦時中、防空壕として多くの人を収容した「ニャティヤ洞(千人ガマ)」を見学しました。ガマの中には「力石」があり、子宝に恵まれない女性が持ち上げると願いがかなうという言い伝えがあるそうです。重く感じたら男の子、軽く感じたら女の子と説明があり、訪問団の中から女性が持ち上げ、軽いと感じたとのことでした。

ガマを後にし、盛んに栽培されているタバコ畑を抜けると、平和活動家である阿波根昌鴻(あはごんしょうこう)さんが主となり、戦後、土地返還闘争、非暴力の抵抗運動の拠点として建てられた「団結道場」へ着きました。

建物の中には入れませんでしたが、



阿波根さんは『殺し合いでなく助け合う人間、奪い合いでなく譲り合う人間、瞞(だま)し合いではなく教え合う人間、そういう人間が平和を作る』と語っていたと説明があり、「沖縄のガンジー」と呼ばれる阿波根さんに頭がさがる思いでした。

続いて、伊江島のシンボルでもある、城山(ぐすくやま)展望台に上り、階段292段が急でしたが、諦めずに登り切りました。頂上からは伊江島が360度一望でき、本当に綺麗な島で、とてもこの島が戦場だったとは思えないほどの美しい島でした。



城山を下山し、次に「ヌチドゥタカラの家」に移動しました。ここは、阿波根昌鴻さんが自宅の敷地内に開設した私設の資料館です。阿波根さんは、沖縄戦における伊江島での戦闘やその後の米軍による土地の強制収用や沖縄戦時に着ていた衣服や持ち物、米軍が訓練中に落とした原爆の模型弾や葉莢、パラシュートなどの貴重な資料を収集し、展示しており、それらを間近で見ることによって伊江島における抵抗運動の経過を詳細に知ることができました。その後、「にしんすに」というお店で、昼食を取りました。ガイドの大畑さんに「伊江島の歴史を教えてくださいありがとうございます」とお礼を伝え、別れました。

復路フェリーに乗り込み、伊江島を離れました。本部港に到着し、ホテルに向かい2日目が終了しました。

最終日はひめゆりの塔・平和祈念資

料館を見学してきました。ひめゆりの塔は1945年に沖縄戦で亡くなった沖縄師範学校女子部・沖縄県立第一高等女子校のための慰霊碑です。

資料館には、当時の戦時中の写真や制服など展示してありました。

学校の生徒211名と教師16名・計227名が沖縄戦で命を落としたとの説明書がありました。15~19歳の女子学生(ひめゆり学徒隊)の死を無駄にしないよう戦没者を慰霊・追悼してきました。

## 戦争は2度と繰り返してはいけない

執行部 牛神 誠

沖縄に行ったのは学生の時の修学旅行以来で、とても楽しみでした。

1日目は到着後、波上宮に行き、辺野古新基地建設現場に行きました。

現地では名護市辺野古新基地建設に反対する沖縄県民がキャンプ・シュワブのゲート前で行っている座り込み行動に対して政府は24時間の監視体制を敷くとともに、強制的にテント撤去を求めると、道路管理者として過剰・異常としか言いようがない対策を行っています。このため沖縄県民は政府に対し、強い不信感と憤りを募らせていました。それでも建設反対に毎日頑張っていました。夕食の席でも、店の経営者も反対運動をしている人たちで、い

私にとって今回の沖縄現地学習会に参加することは大変勉強になりました。

現在も世界で未だに戦争(紛争)が絶えませんが、戦争は大切な家族やあたり前に感じていた日常さえも奪う残酷なものです。大切な人を亡くした悲しみは計り知れません。悲しみしか生み出さない戦争などあってならないと今回参加して感じました。世界で唯一の被爆国として2度と戦争を起こさせないと訴え、平和に解決する方法を考えなければならないと思います。

ろいろな話をしました。

2日目は、塩川で土砂搬出反対行動現場を見てから伊江島に行きました。わびあいの里の反戦平和資料館には支援の寄せ書き・書籍・米軍が訓練中



# 昌一金属争議報告

昌一金属支部は、全国金属機械労働組合港合同に属する支部で、全港湾大阪支部とは50年以上に渡り、地域共闘をはじめ交流を重ねてきました。昨年末、突然の民事再生手続きを通告され、そして長年に渡る粉飾決算の実態を知ることになりました。

そして、サポート企業として名乗りを挙げた那須電機鉄工株式会社は昌一金属支部の執行部4名だけに、組合幹部という理由で、継続雇用をおこなわないと通知してきました。

組合は、那須電機に団体交渉の申入れを再三おこなっていますが、拒否し続けています。

私たちは、大阪にある那須電機鉄工の工場や関係各所に対し、差別的取扱いを止めるよう連日抗議行動をおこなっています。しかし、那須電機は頑なに団交拒否を続けています。

そして4月21日、東京本社社長に対し、抗議行動をおこないました。大阪支部からは執行部3名が参加し、総勢100名を超える全国の仲間が結集しました。



に落とした原爆の模擬弾や葉莢・落下傘・有刺鉄線、そして歴史的瞬間を収めた写真が展示されていました。

3日目は、ひめゆりの塔資料館へ行きました。ひめゆり学徒隊の最期の地とされている伊原第三外科壕の上にたてられた石碑がありました。

ひめゆり学徒隊とは看護要員として南風原にある沖縄陸軍病院に配属された高等女学校の生徒と2名の引率教師のことです。戦争中は寝る間も惜しみ働き続けました。

6月18日の突然の解散命令後、避難していた伊原第三外科壕が米軍のガス攻撃を受け多くの命が失われ、中には自らの命を絶った学生もいたとのことで、亡くなったひめゆり学徒隊の霊を祀るため1964年にこの慰霊碑が建てられました。

何十年も前の歴史を目の当たりにして、当時のことを思うと悲しみでいっぱいになりました。2度とこのような戦争を繰り返さぬよう、各自ができることを考え行動すべきだと思いました。



現在も団交拒否を続けていますが、5月1日に予定していた事業譲渡は組合との問題が解決していないことを理由に1カ月延期しました。このことから会社が組合を嫌悪し、排除したがつていることは明確です。これは単なる差別ではなく人権侵害です。私たちは断固抗議し、職場復帰を果たすまで団結してたたかいます。

(執行部 佐久原 智彦)